



国際シンポジウム (神奈川大学人文学研究所主催)

# 表象としての<日本>:近代ヨーロッパの場合

— 神奈川大学・ヴェネツィア大学 学術交流の現場から —

世界へ、そして未来へ  
**KU** 神奈川大学

横浜キャンパス 23号館206号室

2009年

**10月3日**

(土) 10:00~16:55

参加自由

無料

使用言語 日本語

近世・近代の日本および日本人は、どのようにイメージ化されてヨーロッパに伝えられ、どんな反応を引き起こしたのか。日本とイタリアの研究者が、その諸相をめぐって論じ合う。

## 1. 研究発表の部

10:00	開会の辞: 中島 三千男 (神奈川大学学長)
10:10	アルド・トッリーニ (ヴェネツィア大学東アジア学科・教授)
11:00	「16, 17世紀に西洋人から見た日本人」
11:10	伊坂 青司 (本学国際文化交流学科・教授)
12:00	「ケンペル『日本誌』の<日本>表象—精神文化を中心にして」
昼食	
13:00	ローザ・カーロリ (ヴェネツィア大学東アジア学科・准教授)
13:50	「1921年の皇太子裕仁のイタリア訪問—相互イメージ・表象」
14:00	日高 昭二 (本学国際文化交流学科・教授)
14:50	「越境する表象—近代日本とイタリア」

## 2. パネル・ディスカッションの部

15:15	出席者	アルド・トッリーニ
14:45		伊坂 青司
		ローザ・カーロリ
		日高 昭二
	司会	鳥越 輝昭 (本学国際文化交流学科・教授、人文学研究所所長)
16:45	閉会の辞:	鳥越 輝昭



神奈川大学 横浜キャンパス  
横浜市神奈川区六角橋3-27-1

- 東急東横線白楽駅下車 徒歩13分
- 渋谷駅から急行利用・菊名駅にて各駅停車乗り換え 約30分
- 横浜駅から各駅停車利用 約5分
- 横浜市営バス (横浜駅西口バスターミナルより)
- 東横線36系統/菅田町または緑草庫行 神奈川大学入口下車 徒歩3分
- 東横線82系統/八反橋または神大寺入口行 神奈川大学入口下車 徒歩3分

問い合わせ: 神奈川大学人文学研究所 電話: 045-481-5661 (内線: 4224)

URL: <http://human.kanagawa-u.ac.jp/kenkyu/>

神奈川大学人文学研究所主催 国際シンポジウム

「表象としての〈日本〉：近代ヨーロッパの場合  
—神奈川大学・ヴェネツィア大学学術交流の現場から—」

## 研究発表概要 (発表順)

### 「16, 17 世紀に西洋人から見た日本人」

Aldo Tollini (アルド・トッリーニ, ヴェネツィア大学東アジア学科・教授)

16-17 世紀に, 宣教師によって, 年間書簡が日本からヴァチカンに送られ, キリスト教の布教の状況のみならず, 日本人の様子や *cantagues* (気質) などが描かれた。ヨーロッパで, それに基づいて, 16 世紀から 18 世紀の間に, 日本に関する興味がわき, 日本の表象を記述する本がたくさん出され, 日本の情緒が広く知られるようになった。

1582 年に天正遣欧使節に際して, 西洋人が初めて三人の日本人に会うことができたときの詳しい報告も残っている。

そのような資料に基づいて, 西洋人の目を見た最初の日本人の描写について紹介したいと思う。

Aldo Tollini

専門: 日本古典語, 日本仏教

代表的研究業績 3 点:

- ・ *La concezione poetica di Fujiwara no Teika*, (a cura di Aldo Tollini) (アルド・トッリーニ編『藤原定家の詩の概念』), Libreria Editrice Cafoscarina, Venezia, 2006.
- ・ “Le descrizioni del Buddhismo nei primi

scritti dei missionari cristiani nel Giappone del XVI secolo” (「16 世紀日本に滞在したキリスト教宣教師初期文書にみられる仏教の記述」), *Quaderni di Asiatica Venetiana*, numero speciale “Identità e Alterità: Tra Oriente e Occidente e tra Oriente e Altri Orienti”, Dipartimento di Studi sull’Asia Orientale, Università “Ca’ Foscari” di Venezia, Quaderno n.1/2005, Venezia, 2007, pp. 101-126.

- ・ *Antologia del Buddhismo giapponese* (アルド・トッリーニ編訳『日本仏教文選』), Einaudi, Torino, 2009.

### 「ケンペル『日本誌』の〈日本〉表象—精神文化を中心にして」

伊坂 青司 (Isaka Seishi 本学国際文化交流学科・教授)

ドイツの冒険的博物学者ケンペル (Engelbert Kämpfer 1651~1716 年) によってもたらされた日本情報が, 18 世紀のヨーロッパにどのような〈日本〉表象を形成することになったのか, 彼の『日本誌』を素材に, とりわけ日本の精神文化を中心に報告したい。

ケンペルは来日するに先だって, 哲学・言語・歴史・薬学などを広く修得し, 博物学にも関心を

示している。博物学は地球上の鉱物・植物・動物そして人類諸民族の特性などを総合的な研究対象にし、ケンペルは博物学的手法によって日本情報を記述している。彼は「風土」といった自然条件から日本民族の文化的特徴を浮かび上がらせ、日本民族に固有の精神文化を神道のうちに見ようとしている。そのようなケンペルの日本文化理解のうちに、キリスト教とは異質なルネサンスの新プラトン主義の影響を垣間見ることができる。

ケンペルによる日本の鎖国政策への肯定的評価にもかかわらず、近代西欧における啓蒙主義の席卷によって、近代化に遅れた鎖国日本という表象が作られてゆく。しかし、民族文化についての彼の多極主義的な視点は、現代の文化グローバリゼーションのなかで、見直されるべき意義を有している。

---

伊坂 青司

専門：哲学、生命倫理、文化比較論

代表的研究業績 3 点：

- ・『ヘーゲルとドイツ・ロマン主義』（御茶の水書房、2000）
- ・『ドイツ・ロマン主義研究』（編著、御茶の水書房、2007）
- ・『表象としての日本』（共著、御茶の水書房、2009）

---

### 「1921 年の皇太子裕仁のイタリア訪問—相互イメージ・表象」

Rosa Caroli（ローザ・カーロリ、ヴェネツィア大学東アジア学科准教授）

1921 年（大正 10 年）3 月 3 日の朝早く、軍艦香取は旗艦鹿島に護衛され、ヨーロッパに向けて横浜港を出発しました。その船には特別な船客、皇太子裕仁殿下が乗っていましたが、それは日本の歴史上まったく新しい事件でした。それ以前には、在位中の天皇にせよ、皇太子にせよ、この「神聖なる地」の国境を越えたことはなかったのです。

従って、日本の皇位継承権を持つ皇太子がヨーロッパ五カ国、イギリス、フランス、ベルギー、

オランダ、そしてイタリアを訪問したのは、異例の「行啓」だったということになります。

本発表では、皇太子のイタリアにおける旅程、イタリア王国とヴァチカンの最も権威ある人々からの歓迎、およびイタリアの新聞による皇太子に関する情報や印象などについて述べます。

---

Rosa Caroli:

専門：近代日本社会史

代表的研究業績 3 点：

- ・ *Storia del Giappone*（日本の歴史）、Laterza, Roma 2004, 339 pp.
- ・ *Il mito dell'omogeneità giapponese: storia di Okinawa*（日本の単一民族の神話—沖縄の歴史）Franco Angeli, Milano 1999, 352 pp.
- ・ 「琉球・沖縄におけるアイデンティティの光と影」『国際日本学』第 4 号、法政大学国際日本学研究所、2007 年（57-76 頁）

---

### 「越境する表象—近代日本とイタリア」

日高 昭二（Hidaka Shoji 本学国際文化交流学科・教授）

イタリアの文化が、近代の日本にもたらしたものととは何か、次の三つを軸にして考える。第一は、有島生馬の小説『蝙蝠の如く』（1911 年）が示したイタリア／日本へのまなざし、第二は、明治末から大正初期にかけて輸入・上映されたイタリア映画（とくに『アントニーとクレオパトラ』1914 年および『カピリア』1916 年）の衝撃、第三は、小山内薫によるダヌンチオの翻案劇『緑の朝』（1918 年）をめぐる演劇界の反応である。これらを通して、文化が「国境」を越えるとき何が起こるのか、ささやかな視点を据えてみたい。

---

日高 昭二

専門：近代日本文学

代表的研究業績 3 点：

- ・ 『文学テクストの領分—都市・資本・映像』（白地社、1995）

- ・『近代つくりかえ忠臣蔵』（岩波書店、2002）
- ・『菊池寛を読む』（岩波書店、2003）

---

（司会者）鳥越 輝昭（Torigoe Teruaki 本学国際文化交流学科・教授）

専門：比較文学，比較文化史

代表的研究業績3点：

- ・『ヴェネツィアの光と影—ヨーロッパ意識史のこころみ』（大修館書店、1994）
- ・『ヴェネツィア詩文繚乱—文学者を魅了した都市』（三和書籍、2003）
- ・F・バウマー『近現代ヨーロッパの思想—その全体像』（訳書、大修館書店、1992）